

別紙 1 評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

研 究 課 題	1 麻麻痺性貝毒に関する機器分析法の研究（R2）
研究目的・背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻痺性貝毒の検査を、機器分析(LC-MS/MS)で行えるようにし、危機管理体制の強化を図る。 ・ 安全な食品（ホタテガイ）の供給を行うための毒化および減衰予測の指標を探索する。
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定点で採取したホタテガイのモニタリングデータ解析 ・ 麻痺性貝毒の代謝物の定性および定量 ・ 毒化の環境要因の測定 ・ 得られた研究成果の発表
評価結果	<p>○総合評価 A（4人）・B（1人）・C（0人）・D（1人）</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食の安全を守るという点で重要な研究である。来年度の成果を期待するとともに、その次のステップとして貝の毒化の開始時期（流通を規制する必要がある時期）の推定と、毒が減衰し流通可能になるまでの期間の推定に包括的に取り組むような研究として継続いただくことを希望する。 ・ 重要な課題と思われ、LCMS 分析値で評価するのは良いが、現場対策に活用する実用化を意識して進めてください。 ・ 重要性、緊急性、研究の発展可能性が認められ、優先的に取り組むべき課題と認める。 ・ いつ食べられるようになるかを判断するために必要な研究であり、早期に実施する必要がある。 ・ 麻痺性貝毒に関する機器分析法の研究は緊急・重要性が高く、総合的な評価は A 評価と考える。
センターの対応方針	<p>1 研究計画のとおり実施 2 一部見直しの上実施</p> <p>3 今後再検討（計画再考） 4 実施しない（中止）</p> <p>貝の毒化メカニズムの解明とその減衰予測につながる優れた成果が得られており、今後、さらに研究を進め、麻痺性貝毒の迅速な分析法を確立することで、食の安全安心と危機管理体制を確保するとともに、本県の水産振興に寄与したい。</p> <p>なお、研究に当たっては、共同研究機関との密な連携を図っていききたい。</p>

※ 記載欄は適宜調整（拡張）してください。